

令和元年度福岡市歯科口腔保健推進協議会 議事録

- 1 開催日時 令和元年7月30日(火) 14:00～15:00
- 2 開催場所 エルガーラホール 多目的ホール
- 3 会議次第

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none">1 開会2 挨拶(会長)3 報告<ol style="list-style-type: none">(1) 福岡市歯科口腔保健推進の進捗状況について(2) 福岡市歯科口腔保健関連事業の実施状況について(3) 福岡市歯科医師会地域連携室について(4) 他自治体における学童期のむし歯予防の取組みの事例4 議題
福岡市歯科口腔保健推進における今後の取組みについて<ol style="list-style-type: none">(1) 「12歳児の一人平均むし歯数の減少」を目指して(2) 「歯科保健行動(歯間清掃器具の使用, 定期受診等)向上に向けた環境づくり」
を目指して5 閉会 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- 4 出席委員 17名
欠席委員 3名
- 5 報道機関取材者及び傍聴者
報道機関: 無 傍聴者: 無
- 6 議事概要(次頁以降のとおり)

事務局	【報告（１），（２）】資料１～５に沿って説明。
副会長	【報告（３）】パンフレットに沿って説明。
会長	【報告（４）】資料６に沿って説明。
委員	<p>【議事（１）「１２歳児の一人平均むし歯数の減少」を目指して】</p> <p>１２歳児のむし歯の減少に対して、小学校の健診をしていると、１，２，３年生と、５，６年生は全く違う。食事の後ではないので、磨いてきたかどうかはわかる。忙しくなるためか、高学年になるとプラークコントロールが行き届いていない。資料４の６ページ【学齢期（高等学校含む）】２「歯科保健指導」は、小学校２年生を重点的に、歯科衛生士が学校に出向き、磨き方の指導をしているものだ。しかし、実施校数が半分以下である。全学校やるべきであるし、５年生もやったほうがいい。フッ化物洗口は効果があるものだが、人間は習慣性動物なので、小学校の間にちゃんと磨くことを覚えていないと大人になっても磨かなくなる。大人でも、ブラッシング指導をした直後はできるが、しばらくたつとまたもとの習慣に戻ってしまう。できれば、小さい頃に教え込むのがいいのではないかな。</p>
委員	<p>学校ではブラッシング指導に力を入れている。今話に出た「歯科保健指導」では、歯科衛生士さん達が工夫を凝らした指導教材を準備され、子どもたちも興味をもって聞いている。予算削減により、希望しても、毎年実施は不可能な状況だ。希望する学校は全部できるようにしてほしい。歯ブラシ１本あればむし歯予防ができるということを教えていきたい。今学校に一番求められているのは、安全安心である。学校は様々な子どもたちが集団生活をしている場で、ご家庭や病院などでみせる顔とは違うと思う。その中で注意を払って教育や指導を行っているが、年々アレルギーの児も増えており、毎日食べる給食でさえ、細心の注意を払っている状態だ。福岡市において、食物アレルギーでエピペンを所有する児は、小学校で３４３人、中学校で９０人いる。エピペンを持っていなくても、除去食といって、様々な食べ物に配慮しないといけない児はこの倍以上いる。フッ素は薬品なので大変な配慮をしないといけないと思っている。学校ではブラッシングで、フッ素などは個別の受診で歯科医師の先生の下で、それぞれに合った方法でやっていただきたい。小学校の現場は子どもたちが帰るまで、ほぼ休みがない。その中で、フッ化物洗口をやるのはきびしい。資料６のグラフで、数値はどれくらいなのかと、現在の状況を教えていただきたい。</p>
会長	<p>数値は手元にはないが、佐賀県の一人平均むし歯数は、フッ化物洗口の成果として、資料の平成２２年時よりも減少しており、平成２７年には全国１位となっている。現在は少し順位が下がってきているようなので、一度効果を検証したいと考えているが、学校でフッ化物洗口が徹底されていない可能性がある。食物のアレルギーの話があったが、フッ化物については、アレルギーの報告はないので、混同して、誤解のないようお願いしたい。歯磨きは生涯にわたって歯を大切にしていくなかで根本的なものである。しかし、プラークコントロールは難しく、小学校のブラッシング指導でむし歯が減少するというエビデンスはない。プラークコントロールは、集団ではなく、歯科医院で個人指導をしないと効果は出てこな</p>

副会長	<p>い。一方でフッ化物洗口やフッ化物塗布ではエビデンスがある。これらの情報を知っていただいた上で、児童の歯科口腔保健のことを考えていただきたいと思う。</p> <p>新潟県は歯科保健活動が進んでいることで有名で、フッ化物洗口の普及率は70%、一人平均むし歯数（DMFT 指数）は、0.3であった。だからといってフッ化物洗口の実施は考えていない。歯科医師会が福岡市に提出した要望書の中で、学齢期における健康教育を正規の授業に取り入れてほしいと記載している。歯科に関わるだけでなく、医科、薬剤なども含めた健康教育である。東京都の豊島区で実施されている。健康のことを学齢期に学ぶことは大事である。むし歯予防も大事であるが、口腔機能、咀嚼することが大事でそういったことを学齢期に学ぶ必要があり、学齢期に習慣づければ、成人でも習慣になると思う。フッ化物洗口はむし歯予防につながることは間違いない。歯磨剤のフッ素の含有率が1,500ppm まで含有しているものが出てきている。フッ素の含有率の高い歯磨剤を使って磨くことを習慣づけることが大事である。なお、福岡県はフッ化物洗口を推奨している状況である。</p>
会長	<p>フッ化物洗口を福岡市全体でやるということではなく、例えばむし歯が多い学校が、むし歯予防を検討する上で、一つの選択肢として提示してはどうかということである。フッ素含有の歯磨剤が有効であるということは事実である。ところが、フッ素がこわいという認識を持っている人は、フッ素含有の歯磨剤も使わないという現状がある。フッ素はこわいという誤った認識を教育の中で是正していく必要があるし、学校の義務であると思う。フッ化物洗口に賛成、反対という話ではなく、方法論をしっかりと理解した上で、活用していく考え方が必要である。</p> <p>【議事（2）「歯科保健行動（歯間清掃器具の使用、定期受診等）向上に向けた環境づくり」を目指して】</p>
会長	<p>成人期になって、歯周病等の管理、むし歯の管理を行っていく中でかかりつけ歯科医をどう認知していくか、歯科節目健診をどう認知していくか。歯科節目健診は認知度が低く、受診率も低い。一方で、アンケート調査によると福岡市の半数の方は定期的に歯科健診に行っているという結果になっている。歯科医院で勤務されている上での実感はどうか。</p>
副会長	<p>開業医の立場からの実感としてはそんなにはない。健診というのは、検査ではない。指導をしてもらうことが大事であり、指導を中心とした健診をしないといけない。指導後モチベーションが続くのが3か月といわれているので、本当は3～4か月に1回歯科医院にいったらいい。口腔内の清掃と指導を受けに行くのが理想であるが、仕事を持っている人は難しいと思うので、できれば半年に1回程度は行くようにしていただきたい。口腔ケアと口腔清掃の違いは、口腔ケアには口腔機能の指導が入る、お口の清掃は磨けているかどうかである。半年に1回は磨き残しを専門家に取ってもらい、足りないところを指導してもらうことが、口腔を良好な状態に維持していくことに繋がる。女性は更年期もあり、年齢によっては骨量が減ってくることもあるので、食事も含めて指導していくことが理想だ。我々も様々なところで情報を伝達したいし、市民の方も知識を増やしてほしいと思う。</p>

会長

成人では、プラークコントロールが重要になってくる。集団的な指導では対応できない。歯間ブラシやデンタルフロスなどの歯間清掃器具は、使い方を間違えると歯ぐきを傷つけることもあり、いかに適切に使うかということは、個別に歯科医院で習うことが必要である。プラークコントロールは難しいものなので、学校で教わっただけで、完璧にできるようになるものではない。将来にわたって歯科医院と仲良く付き合う、すなわち歯科疾患になってから通うのではなく、歯科疾患を予防するために歯科医院に行くという意識づけをしていけば、市民の考え方も変わってくるのではないか。全てのライフステージわたって、市民教育に力をいれていただければと思う。

(議事終了)